

# 人物の関係を「可視化」する

「読むこと」指導の一番の難しさは、それが目に見えない、頭の中の活動であるということ。デジタル教科書は、それを可視化する一つの手立てになりそうです。今回は、そんな「読むこと」指導の中での可視化について考えます。



千葉県生まれ。千葉大学大学院修了。千葉県の公立中学校教諭、千葉大学教育学部附属中学校教諭を経て、現職。共著書に「中学生を作文好きにする！新レシビ60&ワークシート」(明治図書出版)など。

## 1 「聞く」中心の学習から「見る」中心の学習へ

先日、筑波大学附属小学校の青山由紀先生の授業を参観しました。

青山先生は、デジタル教科書を活用した国語の授業を数多く実践している先生です。このときの授業でも、小学生が一人一台のタブレット端末を使って「読むこと」の学習に取り組む、最先端の国語の授業を見ることができました。

まず、先生が児童に発問をします。すると、児童は自分のタブレット端末で学習者用デジタル教科書の「黒板ツール」(※)を使って教材本文を抜き出したり、書き込んだりして思考をまとめていきます。

先生の手元にあるタブレットには、授

業支援システム(Active School 001)で送られた児童全員のデジタル教科書の画面が映し出されています(タイズ番組のように、全員の画面がリアルタイムに反映されて、先生の手元にその情報が集められます)。

また、教室前面に巨大な電子黒板があり、同じように児童全員の画面が映し出されています。青山先生は「この発想はいいな」と思う児童の画面を選び、それを電子黒板に一つずつ、次々と大きく投影していきます。他の児童はそれを時折見ながら、内容を参考にして活動を進めていきます。

クラス全体での共有の活動でも、この授業支援システムが大活躍します。ある児童の画面をクラス全体に提示し、それをもとにみんなで考えを深めていきます。

この最先端の授業が、従来の授業と何が違うのか。キーワードには「見ること」があるのではないかと気づきました。

児童は、発問に対する自分の考えをデジタル教科書に表示して「可視化」します。そしてそれを教師はリアルタイムで「見て」、把握していきます。教室前面の電子黒板には児童の画面が映し出されるので、それを他の児童は「見て」ヒントとすることが出来ます。全体での話し合いでは、一つの画面を全員で「見合い」、それを土台として共有することが出来ます。

「読むこと」の指導で私が難しいなと感じているのは、子どもの頭の中の「読む」という活動を、どうやって目に見える形で把握することができるかという問題です。それは、どう読ませるかという

問題と同じくらい、私が課題として考えていることです。

黒板も、ノートも、ICT機器も、また、話し合ったり書き合ったりする言語活動も、つまりは「読む」という見えない世界の、可視化(可聴化)と共有の問題と言いつてもいいかもしれません。

## 2 授業の中の「可視化」を考える

国語の授業では、どんな「可視化」(可聴化)ができるでしょうか。

### 国語の授業での「可視化」

#### ○可視化の例

- ・【教科書】の本文に書き込みをする。
- ・感想や考えを【ノート】【黒板】に書く。
- ・グループで話し合ったことを【模造紙】や【ホワイトボード】に書き出す。
- ・【ワークシート】に沿って、問題に対する自分の考えを書く。
- ・意見を【付箋】に書いて整理する。
- ・順序や関係などを【図表】に表す。
- ・イメージしたことを【イラスト】で描く。

#### ○可聴化の例

- ・解釈を【音読】【動作】で表現する。
- ・考えたことを一人で【つぶやく】。
- ・教師の発問に【口頭で答える】。
- ・お互いに疑問点を【質問し合う】。
- ・隣の生徒やグループで【話し合う】。
- ・考えたこと、調べたことを【発表する】。

※「1」は可視化・可聴化を支援するツールや手法です。

このような、可視化・可聴化のさまざまな手立てを講じながら、「読む」という頭の中の目に見えない世界を演出させ、それを共有していくことが授業づくりの一つのポイントとなっていきます。

では、デジタル教科書は、どのようにして可視化を支援してくれるのでしょうか。

## 3 「可視化」を生かした授業実践

### ① 教材

「盆土産」(三浦哲郎／二年)

### ② わくわく

・作品の構成や登場人物の描写に着目して、人柄や心情を読み取る。

### ③ 教材の特徴と授業づくりのポイント

「盆土産」は何度も授業で取り上げていますが、この作品はなかなか生徒にとってイメージしづらいところが多く、かなりしつかりと読み込まないと味わうことが難しい作品だと感じています。

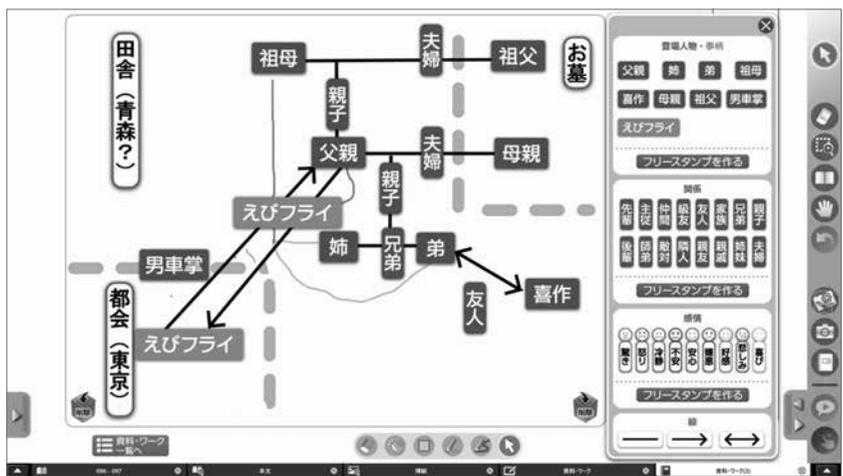
特にポイントとなるのは、家族の置かれている状況を理解すること、時代背景を理解すること。この二つが押さえられていないと、父親が「お盆」に帰ってくることの重みが伝わってきません。

そこで、授業では「ジグソー学習」の方法で、グループ内で分担して作品世界の中に入っていきようにしました。

#### ジグソー学習の分担

- ①「いつ・どこで」係……情景描写や会話文などから時代や場所を類推する。
- ②登場人物係……登場人物の関係や、人柄を読み取る。
- ③語句調べ係……難語句について辞書などで調べる。
- ④キーワード、キーワード係……作品中の言葉(「エビフライ」「帽子」「ドライアイス」など)について、読み取れることを考える。

※ 教材本文から抜き出したキーワードや挿絵を、自由に動かすことができるツール。詳細は、本連載第2回(本誌82号)参照。



▶デジタル教科書を使って登場人物を整理した画面

④ 授業の流れ

▼第一時

通読し、気になったところに線を引いたり、感想や疑問をノートに書いたりしました。書き込みやノートをもとにグループで意見交換をしました。

▼第二時

グループ内で係を決め、各自で追究活動をしていきます。国語辞典や図書館の資料を使って調べた生徒もいます。

授業の後半で、他の班の同じ係の生徒どうしで集まり、それぞれの考えをデジタル教科書に書き込むなどして集約していきます(学習者用デジタル教科書を各係に一台貸し出し)。

▼第三時

それぞれの係で調べたり読み取ったりした内容をグループ内で伝え合い、さらにクラス全体で共有しました。ここで学習者用デジタル教科書の画面を示しながら確認しました。

▼第四時

第一時で出た問いについて、まだ解決していないもの、新たに出た問いについて考え、作品の読みを深めました。

⑤ 登場人物の関係を可視化するツール

第二・三時に活用したのが、デジタル教科書に「ワーク」として収録されている登場人物の関係を整理するツールです。このツールには、左のようなスタンプが用意され、それらを配置することで人物の関係が整理できるようになっています。

もちろん、紙のノート上でも人物の関係を整理することはできますが、デジタルのよさは、スタンプや線などを自由に動かして、試行錯誤しながら自分のイメージに合ったものを作り上げることが

できる点にあります。また、全員が共通のスタンプを使うことができるため、イメージの共有がしやすくなるという良さもあります。

4 授業でどう活用する？

今回の授業では、登場人物について読み取る係の生徒が、情報を共有する際にこのツールを活用しました(左ページ図)。それ以外にも次のような場面で活用できそうです。

作品の登場人物、事柄がスタンプになっている(「盆土産」の作品に沿った内容になっている)。

登場人物の関係を表す言葉(「親子」「主従」など)がスタンプになっている。

「喜び」「悲しみ」など、感情を表すキーワードもスタンプになっている。線を引くこともできる。

① クラス、グループで共有する

指導者用デジタル教科書とプロジェクトなどの投影装置がある場合には、生徒一人一人がノートなどに整理した人物相関図を、教師が全体で集約するときに使えます。

② 個人(グループ)で整理する

一人一台(グループで一台)の学習者用デジタル教科書がある場合は、最初からこのツールを使って登場人物を整理していくことができます。

5 「可視化」を引き出すデジタル教科書へ

このように、文学作品に表れている「人物の関係」や「性格」という「目に見えないもの」をデジタル教科書というツールによって「可視化」し、共有したり、深めたりしていくことができました。

「盆土産」の実践では、登場人物を可視化したことによって「書かれていない部分」にまで目が向き、気づきが生まれました。家族の中の「母」の不在に気づいたのです。言うまでもなく、これは作品を理解するキモの部分です。四月教材の「アイズプラネット」の学習では「書

かれている部分」から人物の関係を読み取りましたが、この学習では、それを一段深めることができました。

また、このツールを生徒が使いこなしていなくてもいいなと感じたことがあります。それは、「フリースタンプ」の活用です。フリースタンプは、自由に文字を入れてスタンプを作る機能です。生徒は登場人物の性格など、オリジナルのスタンプをどんどん作り出していました。こういうカスタマイズは、生徒はとて楽しんで取り組みます。

「ツールに使われる」のではなく、自分たちで「ツールを使いこなす」、または「フリースタンプ」のように「ツールを作る」レベルまでいくと、デジタル教科書などのツールは、真に自分たちの学びの道具となっていきます。そのためにも、ある程度、自由度のある活動の中で、生徒に試行錯誤させて思考を引き出していくことが大切だと感じます。